

医師・看護師・介護職員的大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 92 号

2010 年 5 月 17 日

日本医労連増員闘争本部

TEL: 03-3875-5871

FAX: 03-3875-6270

和歌山

各地でナースウェーブ ニュースがどんどん届いています。順次紹介します

5月15日（土）スリーウェーブ・パレードに110名が参加！

全県各地から110名が参加し成功させることができました。当日は五月晴れで、「ほっとけやん！」「あかなっしょ！」「それどうよ！」紀州弁バージョンのシュプレヒコールを繰り返しながら元気よく行進しました。マスコミ各社が取材に来て、写真入りで報道されました。

出発集会～済生会有田、日高病院、松寿苑、日赤医療センターから職場報告、「高齢化社会を前に医師不足が深刻」と生協病院の古田院長が訴え



会場いっぱいの出発集会

出発集会では、職場報告が済生会有田の坪井さん、日高病院の中村さん、松寿苑の森さん、日赤医療センターの餅越さんからそれぞれ行われました。閉会あいさつに立った生協病院の古田院長は、本格的な高齢化社会を目前にして医師不足が深刻になると指摘し、政府の医師政策の遅れを批判しました。

【全済労有田支部 坪井良介さんの職場報告】

私は労働組合の執行部の活動をしています。実際、組合活動を通じて感じた事は、労働者が少ない上に業務として求められる事が多いという状況です。我々は、この状況を改善するために時間外労働の実態調査を行い、職員に労働組合の存在を知って頂き、その上で労働組合の団結を強めていく事の重要性を説いて回っています。その一方で、残業について当局や各課長と意見交換を持つことで一部の残業が改善されるなど結果も出ています。

また、今後迎える高齢人口の増大は医療・看護・介護職員の増大と必然的に結びつくことになるので、地域住民や患者さんが安心してかかる医療・福祉事業を構築するためにも、現場をささえる医師・看護師・介護士充実は欠かせません。必要な人員の確保をするには当然ながら、様々な労働条件の改善がない限り「その職場に留まり働き続ける」ことにはならない。医療・福祉サービスの質は従事者によって決まり、良好な労働環境がサービスの質の向上を可能とします。しかし、医療・福祉労働者を取り巻く労働環境は非常に厳しく、労働環境に関する問題を根底から改善するためには、多くの仲間の団結・連帯が不可欠です。要求を実現するために労働組合の組織強化をさらに進めていくような積極的な活動を展開する必要があると思います。我々、全済労有田支部は、より良い医療・福祉を地域に提供するために、労働者が将来に希望を持って働き続けられる職場づくりを目標に活動しています。

【メッセージを頂いた方々（順不同・敬称略）】

公立那賀病院院長 近藤 溪 国保日高総合病院院長 森脇 宏 橋本市民病院院長 山本 勝廣 医療法人宝山会 白浜小南病院 今村病院院長 今村 和弘 那智勝浦町立温泉病院 和歌山県保険医協会理事長 船橋 利理 和歌山県看護協会 長 木村 佐多子 和歌山県福祉保健部長 西上 邦雄 和歌山市長 大橋 建一 衆議院議員 岸本 周平 衆議院議員 玉置 公良 参議院議員 世耕 弘成 和歌山県議会議員 山下 大輔 県議会議員・自民党議員総会長 井出 益弘



県庁前から市役所前までパレードしました。